

Title	編集後記
Sub Title	
Author	安藤, 広道(Andō, Hiromichi)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2018
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.5, No.1 (2018. 3) ,p.91- 91
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000005-0091

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

安藤広道

慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター副所長
文学部人文社会学科教授

今年度は、4年間に渡って取り組んできた、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「文化財コンテンツのデジタル表象環境に関する統合的研究」の最終年度であり、当センターにとって節目の年となりました。思い返しますと、試行錯誤を繰り返しながらのプロジェクトでしたが、本紀要に掲載されたシンポジウムの記録や報告、併せてこれまでの紀要の内容もご参照いただければ、その歩みと到達点をご理解いただけるのではないかと思います。

プロジェクトにご参加いただき、多くの成果を蓄積してくださった、福澤研究センター、アートセンターの皆さま、特に今年度で任期が終了する森山 緑さん、横山 寛さんに、この場をお借りして御礼申し上げます。

他方、当センターの教育面でのプロジェクトである MOOCs (Massive Open Online Courses) では、イギリスの発信事業体 FutureLearn において、新たに2コースを加え、計4コースを開設することができました。いずれも大変好評を博しています。来年度以降、より多様なコースを開設する予定ですので、是非ご期待いただきたく存じます。

さて、先般、慶應義塾は、「資料を通じた領域横断的な研究・教育活動の発信と、慶應義塾が蓄積してきた先端的な IT 技術を駆使した、アナログコンテンツとデジタルコンテンツの融合による新たな展示・収蔵モデルの提案を行」う博物館的施設「慶應ミュージアム・コモンズ (仮称)」の開設を発表しました。まさにこれまで当センターが蓄積してきた研究成果や技術を生かせる場であり、当センターに寄せられる塾内外からの期待も大きくなっていくことでしょう。そうした期待に応えられるよう、より一層身を引き締めて研究・教育のプロジェクトを推進していかなければならないと考えています。